



医療  
ホット  
ライン

脳神経外科

# 長引く後頭部の頭痛は要注意。 若年脳卒中・脳動脈解離の疑いも



西村内科脳神経外科病院

理事長 西村振一郎 先生

後頭部や首の後ろなど同じ場所で続く痛みは、放っておくと「若年脳卒中」や、その一歩手前の「椎骨動脈解離」など命に危険が及ぶ場合もあります。西村内科脳神経外科病院長の西村理事長に、お話を伺いました。

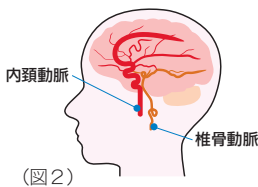
――なぜ後頭部の頭痛は危険なのでしょうか？  
西村 緊張型頭痛や片頭痛などの慢性頭痛、後頭神経痛・肩こりなどによる頭痛であれば、命に関わるようなことはありません。しかし脳動脈瘤による「くも膜下出血」や、「椎骨動脈解離」による頭痛の場合もあり、こちらは早期発見・治療が重要になります。

――椎骨動脈解離とは？  
西村 内膜・中膜・外膜の3層で構成される血管の壁が、何らかの原因で内膜が裂け、そこに動脈内の血液が流入し、裂け目が大きくなる病気で、

(図1)。脳動脈解離で起こる頻度が多い場所が、首の後ろの椎骨動脈(図2)です。  
――原因は？  
西村 交通事故や首の外傷、ゴルフやテニス等のスポーツ、運転中に首をひねったり、重量物を持ち上げた時などに脳動脈

の解離が生じることがあると言われていますが、原因は分かっています。好発年齢は40〜50代の比較的若い世代です。  
いつもと違う痛みなら早めに検査を

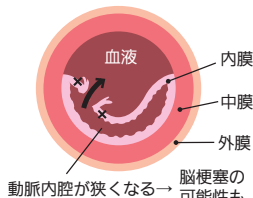
西村 椎骨動脈解離を放っておくと、脳梗塞やくも膜下出血を起こします。診断では、MRIでも脳動脈が狭くなっていたり、膨らんでいないかを確認します。脳梗塞やくも膜下出血を起さず、入院安静をおすすめします。



が原則。降圧剤や痛み止めなどの薬を使い、厳重に血圧管理と鎮痛を行います。発見・対処が早ければ、2〜3週間の安静だけで動脈解離部が安定し、自然に修復されます。椎骨動脈解離は、MRIの進化により発見できるようになりましたが、疑って検査をしないと見逃される可能性も高い病気です。後頭部の同じ場所で痛みが長引く場合や、経験したことがない痛みがあれば、早めにMRI検査を受けることをおすすめします。

【図1】脳動脈解離・動脈の断面図

●内膜と中膜の間が裂けた場合



●中膜と外膜の間が裂けた場合

